

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岩上ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>『金融を通して地域社会の課題解決を考える』</p> <p>金融は経済活動の基盤で、私たちの生活を豊かにするために不可欠な仕組みです。金融の役割の一つは、新しい技術やサービスを持つ企業への投資や融資を通し、私たちの社会が抱えるさまざまな課題を解決することです。</p> <p>ゼミでは、企業分析や資産運用・投資について学ぶとともに、2年次は地域社会が抱えるさまざまな課題の中からテーマを決め、調査・分析しながら投資を活用して解決策を考えるプロジェクトを1年間かけて行います。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>1年後期(演習Ⅰ):企業分析、資産運用・投資を学ぶ 企業分析の基礎を学びます。担当教員の「ファイナンス論」を履修し、資産運用や投資についての実践的な知識を身に付けます。</p> <p>2年(演習Ⅱ・卒業研究):チームでプロジェクト研究する 3～5人でチームを組み、地域社会が抱える課題の中からチームごとにテーマを決め、調査・分析しながら課題解決の方法を考えます。調査では、フィールドワーク(学外識者インタビューや現場見学)も行います。プロジェクトの成果をまとめ、「日経ストックリーグ*」に応募します。応募レポートが卒業論文となります。(*日経新聞主催の金融経済・投資学習コンテスト)</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>企業の人事部にいた経験をもとに、就活全般の相談にのり、指導します。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>日経STOCKリーグのコンテスト提出レポートが卒業論文となります。 個人での卒業論文作成は必要ありません。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>以下に該当する学生の応募を期待します。 ①地域が抱える課題に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲をもつ人。 ②3～5人程度のチーム活動に、積極的に取り組むことができる人。 ③大学生としての基本的なマナーを守れる人。</p>
<p>その他</p>	<p>希望学生は、応募前に研究室(3号館4F-411)まで来てください。 ゼミ活動や日経ストックリーグについてなど、質問に答えます。 あらかじめメールで予約して下さい。(iwakami@k-kentan.ac.jp)</p> <p>前期に担当教員の講義(「金融論」)を履修している必要はありません。履修していないことがゼミでの活動や成績評価に不利になることもありません。</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岡村(俊)ゼミ

基本テーマ	<p>ゼミのテーマは“情報化を中心としたシステムと人間の関わり合い”です。コンピュータやネットワークを中心としたモノ、社会、システムが人間とどのように関わっているのか明らかにし、快適かつ効率的な(職業)生活をしていこうということです。簡単に言うと、“ICT(情報通信技術)を活用することで、ラクして、いい仕事しよう”となります。</p> <p>ヒット商品や心理学に関して学ぶこともあります。あくまでも(働くことを含めた)人間の生活からの視点で考えていきます。</p> <p>岡村(俊)はICTの専門家でもあります。ICT(PC, ネットワーク, ウェブなど)をバリバリやりたいならこのゼミは1つの選択肢となります。一方、「PCは苦手、でもうまくなりたい」という学生が選択してもかまいません。どうして苦手なのか、PC操作のどこが悪いのかを知ることができ、苦手意識を克服することができるかもしれません。ICTに興味がない人はこのゼミには向いていません。</p>
ゼミ運営方法	<p>基本的に“演習1”と“演習2”は“卒業研究”に向けての準備だと考えます。卒業研究は“勉強”ではなく“研究”なので、世の中に役に立つ新しい事実を自ら発見することが望まれます。また、学習と実益を兼ねて、学内あちこちのICT環境改善(パソコンや周辺機器の設定とか)など実践的な活動をやることもあります。</p> <p>ゼミの運営は基本的に学生主体が望ましいところです。学生の運営を教員がサポートする、というのが理想です。状況が許せば、施設見学など授業時間外での活動も、できる限り学生の希望に対応していきたいと考えてます。</p>
就職指導の方針	<p>就職先、進路、書類の書き方など学生の希望に応じて、できる限りのアドバイスはします。こちらからなにか強制することはありませんが、たまに活動状況に関して確認することはあります。指導や助言はしますが、進路選択・就職活動はあくまでも学生自らの責任において行うものであると考えています。</p>
卒論の要件	<p>ゼミのテーマから大きく外れなければ、内容、字数ともに自由です。動画などのデジタルデータでもかまいません。各自のテーマは演習を進める中で自分で決めていくこととなります。内容によっては複数名での執筆も可とします。内容に応じて、実地調査やアンケート調査、実験なども含めることもあります。</p>
学生への要望	<p>自分の考えを持つと同時に、その考えを表現する(相手に伝える)ことを望みません。基本的にゼミ生を“自立した人物”として扱います。“自立した人物”になれない、“自立した人物”になろうとしない学生は、最低限の学習しかできないと思ってください。</p>
その他	<p>何か質問があれば、okamura@biz-kpc.netにメールをするか、研究室(2号館1階)を訪ねてください。</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岡村(雄)ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>「決算書は最高にシビれる“謎解き”だ！」</p> <p>ある書籍のキャッチコピーです。大げさな表現のようですが、的を射ています。決算書の謎を解き明かせば、思いも寄らないドラマに遭遇することがあるのです。鳴り物入りで後継いだ2代目社長があつという間に会社を倒産の危機に陥らせた一方で、あらゆる経済活動が停滞していたコロナ禍に大きく業績を伸ばした会社もありました。数字の羅列で無味乾燥に思われる決算書ですが、会社で起こっている悲喜こもごもについて、ときにドラマティックにも語ってくれるのです。</p> <p>本演習では、モノポリーというボードゲームを使って、複式簿記・会計の基本的なしくみを学ぶことからスタートします。その後、決算書をグラフ化した会計クイズでウォームアップし、決算書の読み方について学習します。以上を踏まえてメンバーのみなさんは、興味のある会社を選択し、シビれる“謎解き”にチャレンジすることになります。</p> <p>日商簿記等の検定・資格の合格を目指す学生はもとより、簿記に苦手意識があっても、会社の社会的な役割、責任等について関心がある学生も歓迎します。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>学生主体の自発的な運営が望ましいと思っています。本演習の大まかな計画は次の通りです。</p> <p>演習Ⅰ：モノポリーを使った決算書作成、会計クイズ、決算書分析の学習 演習Ⅱ：グループに分かれて決算書分析の実践演習、卒業研究の計画 卒業研究：毎週、研究の進捗を報告しながら、論文にまとめる</p> <p>過去に実施した課外活動として下記のものがありますが、参加は任意であり、成績評価には影響しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記検定対策の学習会 ・県大祭での模擬店経営 ・合宿、フィールド調査 <p>今年度はサイエンス農業で注目されている会社を訪ねたいと考えています。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>履歴書、エントリーシートの添削、小論文の対策等できるかぎりサポートします。</p>
<p>卒論の要件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本テーマにしたがって論文を書いてもらいます ・字数制限は設定しません
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なことと思っても遠慮なく相談してください ・気持ちの良い挨拶を心がけ、ルールやマナーを大切にしてください ・会計科目の受講を推奨します
<p>その他</p>	<p>本演習に関心のある方は気軽に研究室を訪ねてください。</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

倉重ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>このゼミでの基本テーマは、「コンピュータを用いた意思決定」です。ここでのコンピュータを用いるとは、プログラミングを行ったり、エクセルをちょっと高度に利用してみたりすることです</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・演習ⅠとⅡでは、エクセルを利用したプログラミングやデータ解析、シミュレーションなどを学んでいきます。ゼミ生の習熟具合や希望に応じて、「エクセルを使った鹿児島県ぐるぐるとの作成や「観光地の評価」、機械学習(AIの一部)への取り組みも考えています。また、コンピュータを用いる課題以外にも人前で話すことや思考力を養う課題などがあります。 ・卒業研究では、原則、演習ⅠⅡで学んだことに関係するテーマで卒論を書いてもらいます。 ・課外活動は、学生さんからの要望があれば実施します。
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職活動に関しては、「自分のペースで活動したい」、「背中を押してもらいたい」など様々な人がいます。要望があればESの添削や面接練習などを行うことを前提にした上で、「暖かく見守る」、「週一で進捗状況を確認する」など皆さんの希望に応じた距離感で指導します。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>ゼミ運営方法にもある通り、演習ⅠⅡで学んだことと卒論を書いてもらいます(ただし、どうしても他のテーマを希望する場合は要相談)。アプリの作成を卒業研究とすることも可とし、その場合は、仕様書やプログラムの説明を卒業論文と見なします。また、複数名で取り組むことも可とします。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも現段階でプログラミングなどコンピュータを扱うことに興味があること(経験はまったく問いません)。 ・チームでの活動を基本とするので、最低限度の協調性は必要かと思えます。 ・後期開講予定の統計学は受講していただけたら幸いです。
<p>その他</p>	<p>このゼミは、以下のような人が向いている気がします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、情報関連分野に就職を考えている人はもちろんですが、ワンランク上のエクセル使いを目指す人 ・数字を扱うパズルが好きな人(得意である必要はありません) ・フェルミ推定が楽しそうと思える人 <p>(フェルミ推定については、ネットで調べてみてください。過去の課題例: 県短で1年間に消費されたトイレペーパーのロール数、県短内で1年間に発生した消しカスの重量、県短内での1年間のタイピング数、県短の門を1年間に通過した人数などの推定)</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

瀬口ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>私の講義科目である、マーケティング論や経営戦略論が基本テーマになります。マーケティング論でいえば、「売れる商品と売れない商品は何が違うのか」、「ブランド力を高めるためにはどうすれば良いのか」、「海外で行うマーケティングは、日本国内で行うマーケティングと何が違うのか」などについて。経営戦略論では、「企業と企業はどのように競争しているのか」、「ライバル会社に勝つためにはどのような手段があるのか」、「企業の行動は社会に対してどのような影響を与えるのか」などの疑問について考えていきます。</p> <p>これらの疑問は、すぐに答えが出るものではありません。1年生後期の【演習Ⅰ】で基本文献を読み、マーケティング論や経営戦略論の基本的思考と理論枠組みを学びます。そこで得られた知識を、2年生からの【演習Ⅱ】と【卒業研究】のなかで、具体的な商品や企業に応用させていきます。</p> <p>過去の卒業生の多くは、卒論のテーマとして、「ディズニーリゾート」、「ユニクロ」、「ルイ・ヴィトン」、「アニメ産業」、「K-POP」、「健康食品産業」など、自分が興味を持っている具体的な企業や産業を取り上げました。その他にも、広告の効果やドラッカー学説の検討など、理論的に考察した研究もありました。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【演習1】では、各自で興味のある本を1冊選択し、そのなかの1～2章分を担当します。皆の興味が一致した場合は、ゼミで共通の本を指定します。 ・【演習2】では、卒業論文作成に向けて、テーマの設定や章立て、資料探しなどを行います。 ・【卒業研究】では、卒業論文の執筆がメインになります。各自のテーマに基づき、研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。 <p>・過去のゼミでは、学生さんの希望に応じて、学内開放(学祭)への参加、食事会を含むゼミ内親睦会、工場見学などのゼミ旅行を実施してきました。</p> <p>ただし、こちらから無理に企画することはありません。皆さんからの希望を聞きながら、あくまでもゼミ生が主体となって計画・実行してもらいます。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差を付けることはありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>希望者に対して、企業研究、履歴書の書き方、面接対策などを可能な範囲でお手伝いします。ゼミ以外でも、希望があれば時間を取って、個別に相談に乗るつもりです。</p> <p>また、就職活動に必要なとされる能力(論理的に考える、自分の考えを持つ、自分の考えを相手に分かるように伝える、相手の話を聞く、質問の意図を読み取る、など)は、ゼミ活動のなかでも養成できると考えます。したがって、普段のゼミ活動においても、就職活動直前になって困らないように、前述した能力を身に付けられるよう指導するつもりです。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>卒論のテーマは、私が指導可能な範囲、すなわちマーケティング論やブランド論、経営学、社会学の一部(文化社会学、消費社会学、メディア論等)などに限ります。</p> <p>テーマ設定や書き方などについては、ゼミのなかで丁寧に指導していきますので安心してください。ただし瀬口ゼミでは、余裕をもって完成できるよう、卒論の準備を早目に進めていきます。また、目次や要約を除いた、本文の執筆期限をゼミ内で独自に設けています。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>現時点での知識は問いません。また、私の授業の受講経験や専攻の違いなども、ゼミ選抜には全く関係ありません。</p> <p>ただし、①欠席する際は必ず事前に連絡し無断欠席をしないこと、②ゼミに関する指導や事務手続きについて、私から連絡があった場合には返信すること、の2点を守って貰いたいと思います。</p>
<p>その他</p>	<p>ゼミについて、ささいなことでも質問があれば、seguchi@k-kentan.ac.jpまで遠慮なくメールしてください。</p> <p>私に直接相談したい場合も、上記のメールアドレスにメールを送ってください。お互いの時間を調整して相談に乗りたいと思います。</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

宗田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>【基本テーマ】 会計学の視点による中小企業の調査・研究 【概要】「鹿児島」の中小企業を考察対象として、ビジネスモデルや会計について学びます。ゼミでは、企業分析、会計情報の作成、利用について学ぶとともに、会計学隣接分野についても学びます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p><u>演習Ⅰ(1年後期)「鹿児島のすごい企業を発見！」</u> 中小企業に関連する基本書を通読したり、企業の調査・分析手法について学びます。鹿児島の中小企業の中から、特徴のある企業を探してもらいます。 <u>演習Ⅱ(2年前期)「何がすごいのかを探検、観察！」</u> 個人ないしグループ単位で個別の企業を実際に調査分析をしてもらおうと考えています。(現2年生は、3～4名一組で活動中) <u>卒業研究(2年生後期)</u> 演習ⅠおよびⅡにおける学修をもとに成果物(卒業論文を含み様々な形態を認めています)の作成を目指します。</p> <p>ゼミ運営の基本方針は以下の通りです。 「勉強の方法を学ぶ」、「知識・技術の習得」、「交流と協調」、「よく遊び、よく学ぶ」 なお、任意参加となりますが、税理士事務所、公認会計士事務所、中小企業などを訪問する機会を設けます。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>どのような進路であっても、可能な限り皆さんのリクエストに応えます。過去のゼミ卒業生は、公務員、金融機関、中小企業、大企業、進学(4年制大学、専門学校等)、起業(飲食店経営)、フリーターと多様です。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>グループもしくは個人で設定したテーマに従って、卒業論文ないし卒業論文同等物を作成していただきます。 字数制限は特にありません。詳細なテーマ等は過去の学生論集を参照してください。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>現在の知識や技術ではなく、次のような学生の参加を望んでいます。 ●挨拶をしたり、時間を守ったりするなど、ルールやマナーを守ることができる学生。 ●勉強に限らず、自らの目標もしくは目的に向けて学生生活を送っている学生。 ●サークルや自治会活動、大学イベントなどに積極的にかかわれる学生。 ●ゼミに入った場合、会計関連科目(簿記論、原価計算、会計学総論、財務会計論、会計情報論、管理会計論、税法など)を履修を希望します(強制はしませんが、学生間の共通の学修レベルを維持したいと考えています。)</p>
<p>その他</p>	<p>【担当者自己PR】 3号館3階に研究室があります。ゼミ選択について聞きたい、知りたいことがあれば、随時、来室してください(アポイント不要) 連絡先アドレス:sota*k-kentan.ac.jp (*は@に換えること)</p> <p>確実に研究室に在室している日程 水曜日:5限とその前後 木曜日:3～5限</p> <p>予定が無ければ在室している日程 月曜日の全日、火曜日の1～4限、金曜日(ただし、第2、3週は会議不在)</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

竹中ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>テーマは、「経営学を学び、これからの働き方を考える」です。 経営学のゼミですので、企業やその活動内容についての理解を深めていきます。同時に、私たちにとって大事な問題である、企業との「働き方」についても考えていきます。「良い企業とはどのような企業なのか」「望ましい働き方とはどのようなものか」などのテーマについて、テキストでの内容を手がかりにして、ゼミで議論を行います。</p> <p>テキストは「みんなの経営学」(佐々木圭吾著)を候補として考えています。 ゼミのメンバーが決まれば、テーマやテキスト、進め方について改めて考える機会を設ける予定です。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>大きな流れとしては、以下のようになります。</p> <p>演習1:テキストを中心として、経営学や企業を考える知識を得る ↓ 演習2:①各自の卒論のテーマを設定し、執筆の準備をはじめる ②引き続きテキストの内容を取り上げる ↓ 卒業研究:卒業論文を仕上げる</p> <p>ゼミは、基本的には学生が中心になって活動していきます。 ゼミ生同士で考えていく時間を多くしていくつもりです。</p> <p>ゼミでは、各自のテーマについて問題意識を持って考えていくことが大切です。自分の意見を述べると共に、他の学生からの質問や感想にも耳を傾けることで、様々な問題の理解が深まっていくようなゼミ運営ができることを望んでいます。</p> <p>なお、ゼミ合宿等の大学外での活動の予定はありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職は皆さんにとっての大きなテーマです。できるだけサポートをしていきたいと考えています。これまでは、履歴書作成や志望動機、自己PRなどどのように書けばよいかについて、アドバイスしてきました。また、具体的な求人情報は学生課にありますので、そこの連携も行っていきます。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>卒論の分量については、目安としてA4用紙10枚程度(12000字～15000字程度)が必要です。テーマについては、経営学や、ゼミで取り上げたテーマでなくても構いません。自分で関心があるテーマを見つけ、それについてじっくりまとめることができれば大丈夫です。1年生の演習1の終盤からそれぞれと意見交換しながらテーマや内容について考えていく予定です。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>ゼミは少人数で運営されるので、一人一人の発言や学生自身の考え方・問題意識が大切です。そのためには、それぞれの人が何を考えているのか、言葉や文字にして他の人に伝えていくことが必要になります。また、伝える方法にまだ慣れていなければ、ゼミなどの機会を活用して練習していくことで、経験値が上がっていきます。 このようなことを理解し、積極的に取り組んでくれる学生を望みます。</p>
<p>その他</p>	<p>ゼミについて何か質問がある場合は、 メールでの連絡 (takenaka@k-kentan.ac.jp)、 もしくは、授業後や研究室などで声をかけて下さい。</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

近間ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>テーマ:人口減少下の社会政策と労働問題を考える 日本の生産年齢人口(15~64歳)は大幅な減少傾向になると見込まれています。そうした社会では、希少性が高まりゆく労働力をいかに有効に活用するかという方向性が模索されています。誰もが望ましい働き方を実現でき、働きがいと高めることができるためにも、既存の制度の見直しや労働環境の改善が求められています。 一方で、今日の働き方には過労死や長時間労働、非正規労働者の不安定雇用や低賃金という問題があり、上記の目的の達成には困難が生じています。ゼミでは日本の働き方の特徴、ライフスタイル(結婚、子育て、介護など)と働き方の関係性について考えていきたいと思ひます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>大まかには以下のような流れで進めていきたいと思ひます。 演習Ⅰ:ゼミのテーマに関わるテキストを1冊選択し、輪読を行います。 演習Ⅱ:卒論の執筆に向けて、各自が関心を持っているテーマに係する論文を取り上げ、その内容を報告してもらひます。 卒業研究:卒論の目次案、概要を報告してもらひ、実際に卒論を作成してもらひます。各々の進捗状況に合わせて、適宜アドバイスを行います。 ゼミ運営の具体的な方法については、ゼミ生と相談しながら決めていきたいと思ひます。あくまで学生が主体となってゼミが運営されることが望ましいので、参加しやすいやり方についても何かあれば提案してください。 また、ゼミ生の希望があれば学内開放での模擬店経営やゼミ旅行などの課外活動を企画したいと思ひます。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差をつけることはありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>希望者には、履歴書の作成や面接練習などを可能な範囲でサポートしていきたいと思ひます。就職活動はゼミのテーマとも密接に関わることですので、心配事なども遠慮せず相談してください。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>社会問題を扱うテーマであれば、ゼミで扱うテーマでなくても構いません。テーマについては、ゼミのなかで相談しながら決めていきたいと思ひます。文字数は目安として10,000~12,000字程度とします。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーを守ってお互いが気持ちよくゼミに参加できるように心掛けていきましょう。 ・欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席しないこと。 ・ゼミでは活発な議論ができることを望みます。ただし、どんな発言に対しても相手を誹謗・中傷するようなことはしないことを守ってください。
<p>その他</p>	<p>ゼミについて興味がある方は、いつでも研究室(3号館4階)に来てください。ゼミの雰囲気や過去のゼミ生の卒論テーマなどを紹介したいと思ひます。不在の場合もありますので、メール(chikama@k-kentan.ac.jp)にてアポを取っていただければ確実かと思ひます。もちろん、メールのみでの質問もかまいません。</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

福田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>毎日、私たちは様々な外国に関するニュースを目にして、耳にします。こうした国際社会で起きる様々な出来事が、鹿児島で暮らす私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考えたいと思います。グローバルな視点をもって、ローカルで活動できるようになることを目指します。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>1年半のゼミの流れとしては、以下のようなものを想定しています。</p> <p>【演習1】社会にある色々な意見に接してみる。ある問題に対しても、多様な意見があることを知る。そして自分の意見を他人に伝えられるようになる。 主に、新聞の社説の読み比べをしたり、読み比べについてのレポートを作成したりします。</p> <p>↓</p> <p>【演習2】全員で読む本を決めて、その本について順番に報告してもらいます。卒論執筆に向けて、論文の書き方などについても学んでいきます。</p> <p>↓</p> <p>【卒業研究】各自のテーマで卒業論文を執筆する。自分の卒論については、他の人からの意見を参考にして、他の人の卒論については意見を述べられるように練習します。</p> <p>希望があれば、課外活動なども行いたいと思っています(任意参加で、成績には一切関係はありません)。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>要望があれば、履歴書やエントリーシートの添削等、面接の練習などを行います。それよりも、小手先の面接技術などを習得するよりも、学生時代にしかできない体験(例えば海外ボランティアや旅行など)、他の人と違った経験をすることを勧めます。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>「基本テーマ」に関するテーマについての卒業論文を執筆してもらいます。分量は、1万2千～1万5千字程度。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>「自分たちのゼミは、自分たちで運営していく」「楽しいこと、滅多にやれないことをゼミのみんなで作って、楽しみたい」という感じの学生をお待ちしています。</p>
<p>その他</p>	<p>何か質問があれば、遠慮なくメールでfukuda@k-kentan.ac.jpまで問い合わせてください。直接研究室に来てもらっても構いませんが、事前にメールで連絡をもらえると確実です。</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

藤野ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>イベント企画やフィールドワーク等を通して地域活性化に関する取組みを学び「地域課題を解決するために必要なこと」について考えます</p> <p>皆さんは「関係人口」という言葉をご存じでしょうか。これは、その街に住んでいる人でもなく、観光等のように一時的に訪れる人でもない。その街と多様な形で継続的に関わっている人たちのことです。</p> <p>日置市では、地域活性化のための手段のひとつとして、「まちのコイン」という地域通貨を使って関係人口を増やすための取組を行っています。今年度の演習Ⅰでは、実際にゼミ生全員と藤野が日置市の「関係人口」のひとりとなり、イベント企画やフィールドワークを通して継続的に関わります。そして、地域課題を解決するために、自治体がどのように市民に関わるべきかを探究する学問である「地域行政学」や、自治体運営の基本法である「地方自治法」の視点もふまえて、より良い地域づくりに必要なことを考えます。(具体的な内容については「ゼミ運営方法」参照)。</p> <p><u>※まちのコインの概要やゼミ活動の雰囲気については、「その他」のQRコードから確認できます。気になる方はご覧ください。</u></p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>具体的な運営方法は学生と相談して決めますが、今のところ以下の通りです。</p> <p>(演習1) 体験がメインです。日置市の職員さんから話を聞いたり、10月末に開催される妙円寺参りで、まちのコインを使ったイベントブースの企画・実施をする予定です。その後はフィールドワークを通じて地域の方に色々な話を聞く予定です。</p> <p>(演習2) 演習Ⅰでの体験を、新たな知識と統合することが中心となります。関係する文献を読みながら体験したことを整理します。また、2026年度のブースイベントの企画も考えようかと。並行して、報告書(卒論)のテーマを決めて資料を収集します。</p> <p>(卒業研究) これまで学んだことと、収集した文献を使って論文を執筆します。</p> <p>(その他) 福岡でのゼミ合宿を実施予定です(昨年度は2月に実施)。福岡で地域活動を行っている大学生と交流し、互いにゼミ活動について報告します。また、合宿では就活・編入の面接対策等もしようと思っております(成績評価の対象にはなりません)。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>(民間企業) ゼミ活動を使って就活の履歴書を書けるようにゼミ内容を設計しています。また、履歴書添削、面接や小論文対策等、要望があれば休日でも対応するなど指導は手厚く行っています。現在、民間就職希望者6名中4名が内定を獲得していますが、全員第一志望の企業です。</p> <p>(編入・公務員) 編入試験対策について、社会科学全般から出題される大学(例えば鹿大法文-地域社会)や法学部であれば対応可能です。昨年度は個別指導を行っていた学生2名中1名が合格(鹿大法文-法学)でした。公務員試験対策については、県短での指導実績はありませんが、以前勤務していた大学で指導していましたので問題なく対応可能です。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>ゼミでの学びに基づいて、全員で分担して「ゼミ活動報告書」を作成しようと考えています。ただ、一人で執筆したい学生もいるかもしれませんので、そのような場合については個別対応も可能です。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・街づくり、地域活動、ボランティアに積極的な学生の参加歓迎。 ・授業外での活動は任意参加ですが、他のゼミよりも多いかもしれませんので、心づもりをしておいてください。 ・無断欠席、無断遅刻はやめましょう。
<p>その他</p>	<p>「藤野ゼミに入るんじゃなかった！」ということにならないよう、研究室訪問をお勧めします。基本的にいつでも対応します。メールで予約していただいても構いません(メアドは fujino@k-kenta.ac.jp です)。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>←まちのコインについてはこちら</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>昨年度のゼミ活動→ についてはこちら</p>  </div> </div>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

船津ゼミ	
基本テーマ	<p>コミュニケーション能力、議論する力、マクロ経済学を主とした経済学に関する体系的知識、経済・社会に対する洞察力、プレゼン能力の習得・向上を目指します。これらは、一般企業、公務員等を目指した就職活動全般や進学に有意義であるだけでなく、卒業後、社会人として様々な活動をする上での地力になると考えます。</p>
ゼミ運営方法	<p>ゼミの具体的な運営方法は初回にゼミ生全員で話し合っ決めてたいと思います。そして、1年半単位ではなく、半期ごとに成果が実感できるゼミを目指します。</p> <p>私からは、現時点では、毎回のゼミの最初の20分程度でグーグルの研修プログラムを参考にしたコミュニケーション能力向上のためのエクササイズを行い(面接対策にも有用と考えます)、その後の1時間強は、伊藤元重『マクロ経済学 第3版』日本評論社をテキストにマクロ経済学を学びつつ、学んだ内容と関連したニュース等について議論することを提案する予定です。</p> <p>マクロ経済学は公務員志望者、進学希望者、就職希望者、自分での起業を考える方等、どのような道に進んでも有用です。しかし、商経学科には経済専攻であっても「経済学」の後、マクロ経済学についてさらに学べる科目が開設されていません。マクロ経済学についてさらに学びたいという声がよく上がりますので、ゼミの主要なテーマにふさわしいものの1つと考えます。</p> <p>また、テキストの学習以外に数回、ディベートか新聞や海外通信社の記事等を元にした議論も行えればと思っています。</p>
就職指導の方針	<p>ゼミ生の要望に応える形で指導します。こちらから、あれをしなさい、これをしなさいといった指示を出すことはありません。</p> <p>具体的には、履歴書を書く時に相談に乗ったり、添削したり、面接の練習相手をしてアドバイスしたり、進学志望のゼミ生には、志望大学に合った勉強方法についてアドバイスしたり、勉強会をしたりといったことをしてきました。</p> <p>二部ゼミで2年次に地方公務員試験に合格し、その後、公務員として勤務しながら学んで卒業した先輩が、面接や履歴書対策の資料を残してくれていますので、それも活用してもらおうと思っています。</p>
卒論の要件	<p>分量としては、400字×20枚以上が一応の目安です。テーマは、経済・社会に関するものであれば基本的に自由です。</p> <p>過去の卒論のテーマには、鹿児島県財政、鹿児島県内の市町村合併(薩摩川内市、南九州市等)、地域経済の活性化(出水市の企業誘致、「さんふらわあ」の影響、天文館の活性化、鹿児島の茶産業等)、雇用・労働(アルバイト雇用、派遣労働、高齢者雇用、外国人労働者、女性の就業率、奄美市の雇用、中小企業のジョブ型雇用導入)、観光(鹿児島県と熊本県や福岡県との比較、霧島等のジオパークの比較、出水市の観光戦略等)、地域防災(鹿児島市と宮崎市の比較、建設発生土問題)、テレビCMと企業の売上の関係性、企業の経営分析(路線バス、ブランド戦略、コンビニ間の比較、ユニクロの分析、楽天とアマゾンの比較、東宝と東映の比較)、スポーツ(日本のプロ野球球団、野球の独立リーグ、日本女子サッカーの分析、鹿児島ユナイテッドFC等)、NPOと行政の協働、ロンドンオリンピックから見る東京オリンピック、太陽光発電の現状と課題、ブロック経済政策の歴史等がありました。</p> <p>ゼミ全体やゼミの中での数人のグループで共通のテーマに取り組むことも考えられます(過去には2人で協力してアンケートを取って保育士・幼稚園教諭の人材確保と処遇改善に関する連名の卒論を書いた先輩もいます)。</p>
学生への要望	<p>現在の知識の量、勉強や読書の得意・不得意といったことは一切問いません。経営情報専攻でも全く問題ありません。</p> <p>ゼミの議論では積極的に発言してもらいたと思います。良いこと、感心してもらえるようなことを言おうとする必要は全くありません。しゃべることが得意でなくても構いませんから、自分が感じたこと、考えたことを素直に、出来るだけ分かりやすく伝えようとしてもらえれば十分です。そうしやすいようにゼミを運営するつもりです。</p> <p>毎回のゼミでのそうした積み重ねが、コミュニケーション能力や議論する力、プレゼン能力の向上に必ずつながっていきます。</p>
その他	<p>僕に実際に会ったり、話してゼミ選択の判断材料にしたいという方は遠慮なく声をかけてください。他の仕事等と重なる可能性もありますので、前日の午後9時までにメールでアポイントメントをとってもらおうと確実だと思います。数人一緒でも大丈夫です。来室時には軽くノックして、「〇〇(自分の名前)です」と呼びかけてもらえると助かります。</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

前田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>【基本テーマ】 持続可能な地域づくりを考える</p> <p>【概要】 日本全体の人口減少や大都市圏への人口移動等により、地方圏の多くは存続の危機に直面しています。これからは、そこに住む人々自身が地域のあるべき姿を意識しながら、地域づくりを考えていくことが重要です。このゼミでは「持続可能な地域づくり」を基本テーマとして、先進地の事例や理論を参考にしながら、各自の発想によって持続可能なより良い地域づくりの方策を考えます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>【演習1】 文献調査や文献輪読を通して地域づくりの基礎知識について学びます。学期の終わりには、成果をまとめたレポートを提出してもらいます。</p> <p>【演習2】 地域づくりに関する文献調査および事例調査を行います。ゼミでは、それぞれの調査結果を報告し、各自が卒論のテーマとしたい課題を見つけていきます。学期の終わりには、成果をまとめたレポートを提出してもらいます。</p> <p>【卒業研究】 各自が卒論のテーマを決めて研究を進めます。ゼミでは、各自のテーマに基づき研究内容や進捗状況などを報告します。</p> <p>【ゼミ活動(任意)】 県内各地でフィールドワーク(まち歩きや地域の方への聞き取り調査、地場産品の販売体験など)を実施します。 また、鹿児島大学農学部附属演習林(垂水市)でゼミ合宿を行います(1・2年生合同を予定)。演習林でのゼミ合宿時には、食事代、鴨池港までの交通費、垂水フェリー往復料金(合計で3,000円程度)がかかります。 これらの活動への参加は任意ですが、参加する意欲のある学生を歓迎します(成績には影響しません)。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>どのような進路を希望する場合でも相談に乗ります。 可能なかぎりに必要なサポートも行いますので相談してください。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>基本テーマに沿って論文を書いてもらいます。 字数制限は設定しません。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>地域づくりに関心を持っていること。 特別な理由が無い限り、遅刻・欠席をしないこと。 協調性をもつこと。 ゼミでの意見交換や議論に積極的に参加すること。</p>
<p>その他</p>	<p>質問があれば、いつでも研究室(3号館2階)に来てください。 直接研究室に来てもらっても構いませんが、不在のこともあるので、事前にメールで連絡をもらえると確実です(連絡先: maeda@k-kentan.ac.jp)。 前田ゼミ所属の先輩の話が聞きたい場合は調整しますので相談してください。</p>

2025年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

山口ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>〈「当たり前」を疑う〉</p> <p>「自分の頭で考えて行動する」ということを大学生生活の目標としている人もいますが、逆に言えばそれは訓練しないとできない難しいことです。</p> <p>まず第一に、いろいろな人や出来事との出会いによって、考えるべき問題を見つけなければいけません。これには行動力が必要です。</p> <p>第二に、“考え方”も重要です。無意識的、直感的な判断と、意味というものをじっくり考えての判断がどう違い、どうしたら必要な時に後者の判断ができるのか、ということ学ぶ必要があります。</p> <p>このゼミでは、“意味”を考える力をつけるために、〈「当たり前」を疑う〉というテーマを掲げます。</p> <p>「疑う」とは「否定する」ということではありません。「当たり前」「常識」とされている事柄は、人々が意味を考えずにただ従っているということが多いため、あえてそうした事柄の意味を考えてみましょうということです。</p> <p>卒論では興味のある事柄から何か社会問題を取り上げ、常識的な解決策を徹底的に調べてまとめ、意味を考えてもらいます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習1では、物事を認識し、理解するとはどういうことなのかを学びます。手段として、共通文献の輪読と賛否両論ある社会問題についての討論を行います。</p> <p>演習2では、「社会」という独特の対象への認識を深めるために社会科学の理論に関する文献輪読を行い、並行して各自のテーマとしたい問題に基づいてゼミ参加者による研究報告を行います。</p> <p>卒業研究では、各自がテーマを決めて研究を進め、研究報告を中心としたゼミ運営を行います。</p> <p>演習1および演習2の最後には、それぞれ半年の成果をまとめたレポートを提出してもらいます。</p> <p>文献輪読の対象文献は今のところ以下。その他はゼミ生の興味関心に合わせて選定します。</p> <p>服部史、小島治幸、北神慎司(2015)『基礎から学ぶ認知心理学』有斐閣ストウディア</p> <p>ダニエル・カーネマン(2014)『ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか?』ハヤカワノンフィクション文庫</p> <p>苅谷剛彦(2002)『知的複眼思考法』講談社+α文庫</p> <p>筒井淳也(2020)『社会を知るためには』ちくまプリマー新書</p> <p>上記はデフォルトの進め方ですが、ゼミ生の話し合いによって微修正、大修正が出て問題ありません。ゼミはゼミ生みんなのものです。</p> <p>その他課外活動として合宿(最初期をイメージ。お互いの交流を深め、話し合いをしやすい企画)、調査、研修旅行(福岡、名古屋、東京が候補)、懇親会等を行います(全て実施とは限りませんが、実施しても強制参加ではなく、任意参加です)。</p> <p>メンバーが行動力の面で成長するためにも、たくさん話し合いが必要な「めんどくさい」ゼミを目指します。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職・進学いずれにしても、基本は自分自身で進めてもらいます。</p> <p>その中でわからないことがあれば相談に乗ります。可能なかぎり必要な支援も行いますので、相談は遠慮せずしてください。</p> <p>支援の中身としては、編入試験の勉強会のチューター、志望動機の添削や自己分析の手伝いなどを過去行ってきました。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>テーマは指導の中で相談して決めていきます。字数はおおよそ12000字以上とします(図表込み)。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席をしないようにしてください。 ・しっかり勉強に取り組むことを基本としていますが、とりわけ就活の取り組みを含め、個々人の状況には配慮します。負担が大きいなどの悩みがあれば遠慮なく相談してください。 ・ゼミの課外活動については、実施される場合基本的に参加を推奨しますが、参加不参加の判断は任意であり成績には影響しません。また、金銭面その他不安がある場合は相談してください。 ・自分の心身の健康を大切に。 <p>・その上で、ゼミでやってみたいことを恥ずかしがらずに表明して、責任者として実行していくという経験もぜひお勧めします。</p>
<p>その他</p>	<p>面談の希望があればメール(y-yamaguchi@k-kentan.ac.jp)または直接予約をとってください。</p> <p>面談は研究室(3号館2階)で行います。</p>